

相生探訪ウォーキング

～懐かし相生の風に吹かれながら～ [約2kmコース]

おあの町一日探訪コース その1

(海老名氏の時代から鈴木商店まで)

⑤ 小泉先生碑

相生1丁目

旧中江歯科



松の浦地蔵



波止場の灯籠



なぎさホールから見る造船所



播磨劇場跡



西海老名灰塚



相生天満神社



大尉軍神社



上荒神社



報恩地蔵



松井酒造



松田酒造



相生蛭子神社



濱本邸
(内部非公開)



相生公民館

スタート
ゴール

相生市文化会館
なぎさホール

あいあい
ひろば

相生館跡

相生港郵便局

相生5丁目

北町公民館

大谷町

相生4丁目

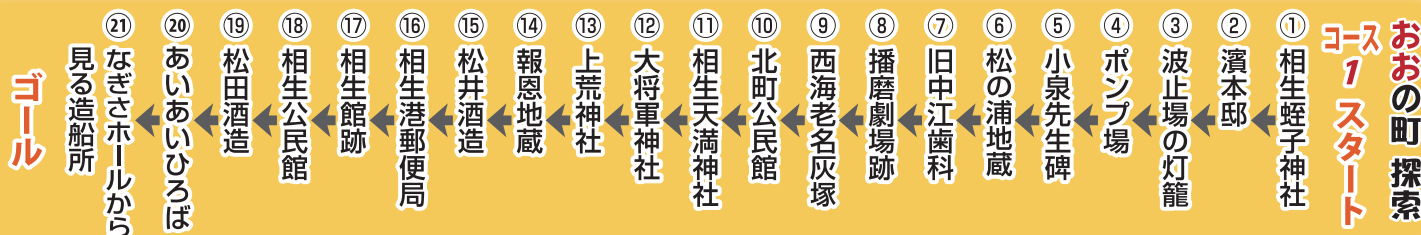


0m 50m 100m

雨香園より見るおおの町

コースその1

「相生と書いて“おお”と呼ぶ」と佐多稲子が小説「素足の娘」で描いたこのまちを、歩いてみませんか。
古くは地頭 海老名氏が治めた鎌倉時代から、鈴木商店がもたらした造船所繁栄の面影を残す昭和の時代を経て現在まで、時代の流れを感じながら散策します。
ノスタルジーに浸る時間旅行に出かけましょう。



① 相生蛭子神社

商売の神として信仰の厚い蛭子神社は、1665（寛文5）年海老名21代家次が社を建て、1775（安永5）年海老名31代欣数がえびす宮総本社の西宮神社より勧請して末社となった。1月の十日戎はたいへん盛大に行われている。

② 濱本邸（内部非公開）

明治初期の商家として「ひょうご住宅百選」に選ばれた濱本邸は、江戸時代の豪商で建物は1874（明治7）年の格調高い凝った造りの住宅である。仏間の天井には見事な花模様絵が画かれている。

③ 波止場の灯籠

埋め立て前の相生港には1843（天保14）年に建てられた灯籠があった。埋め立てにより波止場は消滅したが、ほぼ元の位置に再建された。灯籠には「住吉大明神」と刻まれ、港へ入ってくる船の目印となって、夜には火を灯して燈台の役目を果たしていたと言われている。

⑥ 松の浦地蔵

1838（天保9）年の建立。地蔵は立像。子宝に恵まれなかった、おおの資産家唐土屋の稲岡宗太郎が、夢枕に立たれた観音菩薩のお導きにより地蔵堂を建立して、お詣りしたところ年を経ずして子に恵まれたので子育て地蔵と呼ばれている。

⑨ 西海老名灰塚

御星ノ台の麓は古くからの墓地で、入り口付近に西海老名の灰塚と墓標がある。海老名家は本家・東家・西家が実在し、それぞれの墓地がある。

㉑ なぎさホールから見る造船所

なぎさホールは、「相生湾に浮かぶ船」や「棧橋」をイメージしており、造船を中心に栄えた相生の記憶の継承、未来の相生の創造など、相生の新たなランドマーク、文化発信の拠点として誕生した。対岸に、造船所を造って相生発展の礎となった唐端清太郎の顕彰碑、鈴木商店時代の赤レンガ倉庫、林立するクレーンが見える。

⑪ 相生天満神社

菅原道真を祀る。「海老名家季陣中に道真の像を得、1191（建久2）年9月一社を建立、これを安置する」と伝えられる。1883（明治16）年に村社となった。大谷川に架かる石橋は1729（享保14）年の造築で1935年に架替られた。

⑫ 大將軍神社

源頼義・義家・頼朝を祀る。海老名四代頼保が1268（文永5）年5月5日に創建したと伝わる。夏祭りは7月末の休日で、近年まで子どもみこしを出して町内を練り歩いていた。鳥居は蛭子神社から移設したと伝わり「弘化二乙巳歳九月吉日 魚屋彌平治・濱屋尚八郎」と刻まれている。神奈川県海老名市との交流を示す石碑がある。

⑬ 上荒神社

素盞鳴命（スサノオノミコト）を祀る。拝殿脇の倉庫に絵馬（相生市史掲載）を保管していたが、平成10年に火災にあい消失した。

⑯ 相生公民館

この場所には、相生の支配者であった海老名氏の屋敷があり、大石良雄が知行地である相生村へ来たときに泊まる部屋があった。後に役場となり、市制施行後は市役所が置かれた。庭は海老名邸当時の面影を残しており、四季折々の景色が楽しめる。池には鯉が泳いでいる。敷地にある茶室「滴水庵」は、相生出身の茶道家、名誉市民である濱本宗俊の寄贈による。